



2024年3月期 決算

伯東株式会社

2024年04月30日

連結損益計算書の概要

主要取引先の商流変更、中国市場の低迷、顧客の在庫調整等により対前期比で減収・減益も、政策保有株式の売却により1株利益(EPS)は期初計画比で微減にとどまる

《当期業績の概要》

◇売上高：大手半導体メーカー製品の商流変更の影響により減収

◇売上総利益：売上減少に伴う利益減少も、低収益性事業の終了や電子・電気機器の伸長により利益率は改善
(前期 13.9% ⇒ 当期 14.7%)

◇営業利益：売上総利益の減少により減益

◇当期純利益：特別利益として投資有価証券売却益等17億円を計上

◇EPSの期初計画は288.87円

(単位:百万円)	23/3期 累計	24/3期 累計	増減(△印減)	
			差異	比率
売上高	233,624	182,046	△ 51,578	△22.1%
売上総利益	32,379	26,833	△ 5,546	△17.1%
営業利益	12,711	7,636	△ 5,075	△39.9%
経常利益	12,048	6,912	△ 5,136	△42.6%
当期純利益	8,929	5,175	△ 3,754	△42.0%
EPS	470.52円	276.20円	△ 194.32 円	—
ROE	14.2%	8.0%	△ 6.2 %	—

連結営業利益の増減要因

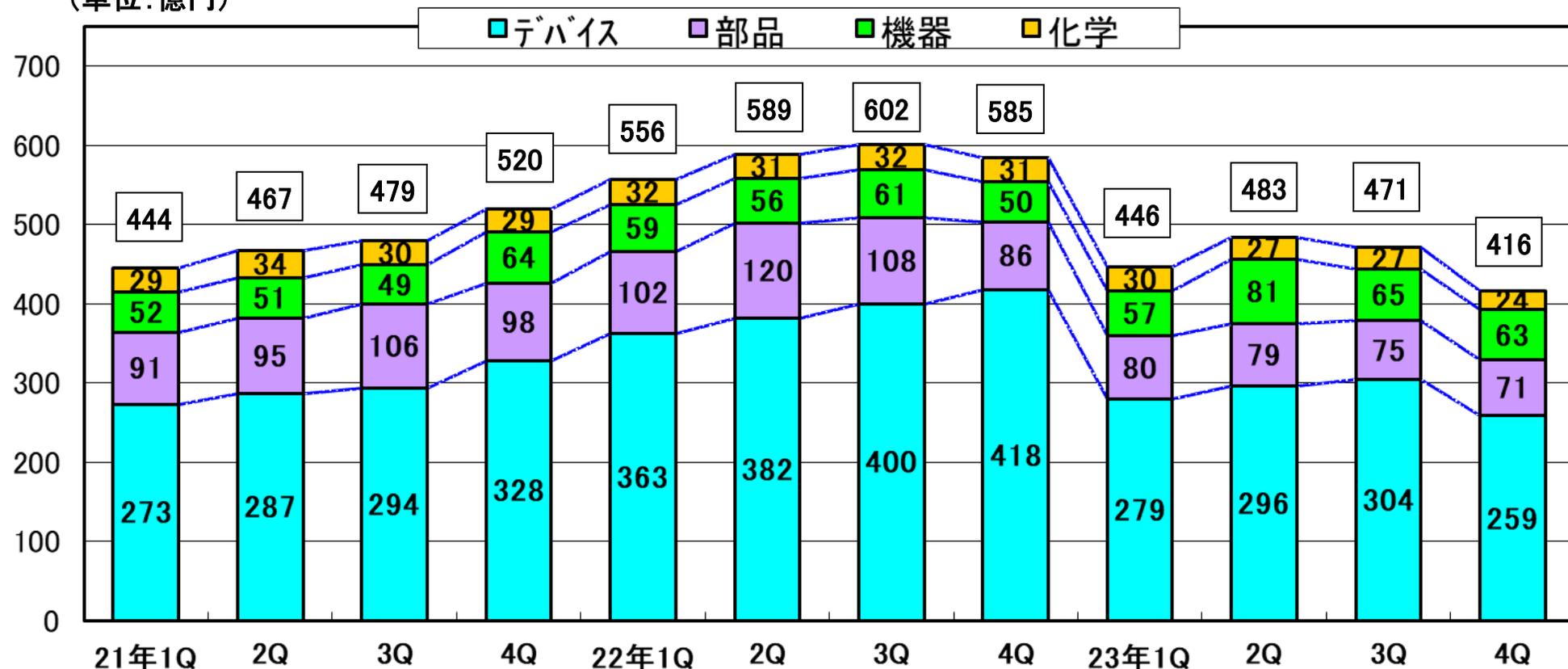
- 中国・欧州など各国の景気低迷の影響により電子部品・工業薬品等で減益
- 円安進行による為替影響も23/3期に比べ軽微



分野別連結売上高の四半期推移

- ◆ デバイス：商流変更の影響や民生機器向け中国市場低迷も、車載用途ICは販売堅調
- ◆ 部品：中国の景気回復の遅れにより民生機器、モバイル向けコネクタ類が減少
- ◆ 機器：真空・理化学関連機器、半導体関連及びPCB関連機器の販売が伸長
- ◆ 化学：石油・石化向け工業薬品は堅調も、化粧品原料は23年2Q以降需要低迷

(単位:億円)



セグメント情報の概要

電子部品事業と工業薬品事業が商流変更や市況の変化の影響を受ける中、電子・電気機器事業は増収・増益で推移

(単位:百万円)		23/3期	24/3期	増減
電子部品	売上高	197,818	144,287	△ 53,531
	セグメント利益	10,462	5,929	△ 4,533
電子・電気機器	売上高	22,717	26,547	3,830
	セグメント利益	1,665	1,777	112
工業薬品	売上高	12,615	10,788	△ 1,827
	セグメント利益	849	35	△ 814
その他	売上高	1,237	1,090	△ 147
	セグメント利益	205	35	△ 170
合計	売上高	234,388	182,714	△ 51,674
	セグメント利益	13,182	7,777	△ 5,405

《セグメント情報の概要》

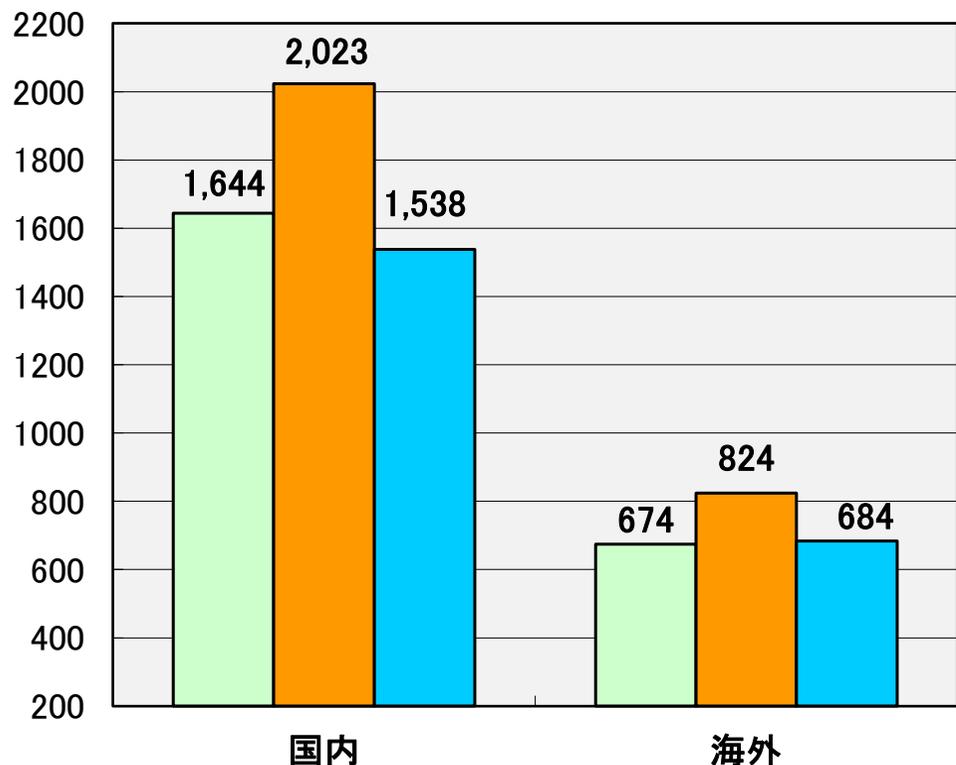
◆電子部品：商流変更、中国市場の低迷、為替影響による利益押し上げ効果の減少等により、減収・減益

◆電子・電気機器：真空機器、半導体関連及びPCB関連機器の販売伸長により増収・増益

◆工業薬品：化粧品原料の販売減少により、減収・減益

※1. 売上高はセグメント間内部取引消去前（同一セグメント内取引は相殺済）の金額

(単位:億円) 売上高(単純合算)



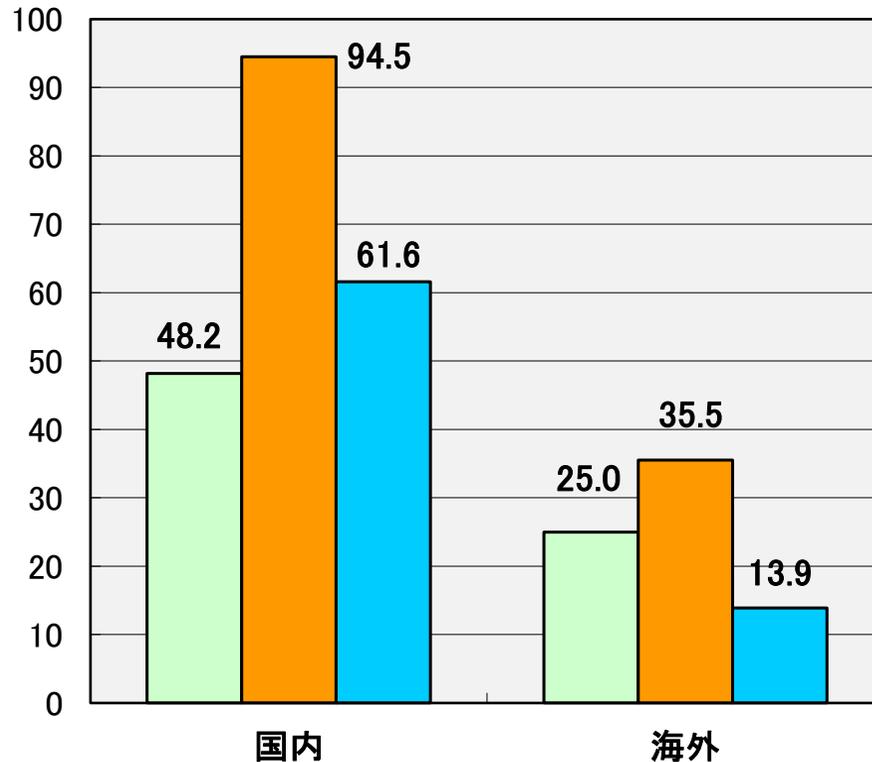
国内(伯東+連結子会社2社)

伯東、モルテック、HAL

海外(連結子会社9社):

伯東香港、上海、台湾、シンガポール、タイランド、他4社

(単位:億円) 営業利益



□ 22/3期4Q実績

■ 23/3期4Q実績

■ 24/3期4Q実績

連結貸借対照表

資金負担の大きな商流が後任代理店へ移管された結果、運転資本と有利子負債が圧縮
現預金残高の見直しや政策保有株式の縮減により、バランスシートをスリム化

(単位:百万円)	23/3期	24/3期	増減 (△印減)
総資産	145,900	137,759	△ 8,141
内:現預金	16,751	15,568	△ 1,183
内:売上債権	58,853	44,378	△ 14,475
内:たな卸資産	47,973	56,148	8,175
内:投資有価証券	9,288	8,670	△ 618
総負債	82,036	71,825	△ 10,211
内:仕入債務	26,569	24,268	△ 2,301
内:有利子負債	42,085	36,484	△ 5,601
純資産	63,863	65,933	2,070
自己資本比率	43.8%	47.9%	—

《主な増減理由》

- ◆現預金：連結CF参照
- ◆売上債権：商流変更に伴う移管在庫に係る債権の回収により減少
- ◆棚卸資産：半導体需給緩和に伴う仕入増により増加
- ◆投資有価証券：保有株式の売却により減少
- ◆有利子負債：運転資本圧縮に伴う借入金減少
- ◆純資産：利益剰余金の減少(当期純利益+52億円、配当△56億円)、為替換算調整勘定の増加

資金負担の大きな商流が後任代理店へ移管された結果、営業CFが大幅に改善
政策保有株式の売却収入により、有利子負債も圧縮

(単位:百万円)	23/3期	24/3期	増減 (△印減)
営業キャッシュ・フロー	△ 3,382	8,712	12,094
投資キャッシュ・フロー	△ 300	876	1,176
財務キャッシュ・フロー	1,314	△ 11,451	△ 12,765
換算差額	499	680	181
現金・現金同等物の増減額	△ 1,868	△ 1,182	686
現金・現金同等物の期末残高	16,751	15,568	△ 1,183

《今期の主な内訳》

- ◆営業CF：税前利益+74億円、売上債権の減少+157億円、棚卸資産の増加△70億円、仕入債務の減少△27億円、法人税等の支払△36億円
- ◆投資CF：投資有価証券の売却収入+20億円、固定資産の取得支出△11億円
- ◆財務CF：借入金の返済(純額)△58億円、配当金の支払△56億円

2025年3月期 連結業績予想

地政学リスクの高まり、中国市場低迷の長期化及び顧客の在庫調整の遅れ等により、半導体を始めとするエレクトロニクス関連の市況回復は25/3期下期を見込む

(単位:百万円)	24/3期 通期	25/3期			増減	
		上期	下期	通期		
売上高	182,046	89,000	101,000	190,000	7,953	4.4%
売上総利益	26,833	12,600	14,400	27,000	166	0.6%
営業利益	7,636	3,000	4,500	7,500	△136	△1.8%
経常利益	6,912	2,700	4,200	6,900	△12	△0.2%
当期純利益	5,175	1,900	3,000	4,900	△275	△5.3%
EPS	276.20			260.61	△15.59円	—
ROE	8.0%			7.4%	△0.6%	—

- ◆ 2023年4月28日公表の「中期経営計画Change & Co-Create 2024見直しについて」では、2025年3月期の連結営業利益目標を90億円以上としていたものの、上述の背景により化粧品分野や海外事業において計画未達となる見込み

2024年3月期期末配当 及び2025年3月期配当予想

株主還元方針：現中期経営計画期間中(2022年3月期～2025年3月期)は、配当と自己株式の取得により、総還元性向100%を目標とする株主還元を実施

基準日	1株当たり配当金						配当金 総額 (年間) 百万円	配当性向 (連結) %	純資産 配当率 (連結) %
	第2 四半期末		期末		年間				
2023年3月期	円	銭	円	銭	円	銭	5,292	59.5	8.5
2024年3月期	120	00	160	00	280	00	5,259	101.4	8.1
2025年3月期(予想)	130	00	130	00	260	00	—	99.8	—

- ◆ 2024年3月期：1株当たりの期末配当金は140円、年間配当金は期初計画通り280円
- ◆ 2025年3月期：1株当たりの年間配当金は260円を予想

本資料にて記載されているデータ及び将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により変化する可能性があります。従いまして、本資料は記載された目標・予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。

< IRに関するお問合せ先 >

経営企画部 tel.03-3225-8931